

【情報提供】

真庭市役所

こどももおとなも楽しめる真庭の映画祭 「ニューガーデン映画祭2026」開催！

こどもも大人も映画を楽しめるようにと、毎年真庭で開催される「ニューガーデン映画祭」、今年は4回目を迎えます。地域に豊かな根っこが育つようにと、市民有志で運営する映画祭です。

国内外の映画上映のみならず、監督や映画関係者を招いたトークイベント、映画づくりワークショップなど、人との出会いや交流を通して映画をたっぷり楽しんでもらえるよう、現在準備を進めています。

当日は、地域の飲食店などとも連携し、真庭の町自体も楽しめる様々な仕掛けを予定しています。

2月25日には記者会見を開き、全プログラムをご紹介いたしますので、ぜひご取材いただきますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

開催概要▶

- 1.開催日 令和8年3月27日（金）～ 29日（日）
- 2.場 所 ビクトリシアター（真庭市久世2581）
真庭市立中央図書館（真庭市勝山53-1）
- 3.内 容 別紙をご参照ください。
- 4.主 催 ニューガーデン映画祭実行委員会
- 5.共 催 真庭市立中央図書館
- 6.助 成 真庭市
- 7.補 足 記者会見を行います。

日時：2月25日（水）午後1時30分～3時

会場：ビクトリシアター（真庭市久世2581）

お問い合わせ先▶

ニューガーデン映画祭 2026（PR 担当：出口 はる）
Tel：090-2319-5605 Email：haru@deguchipr.jp

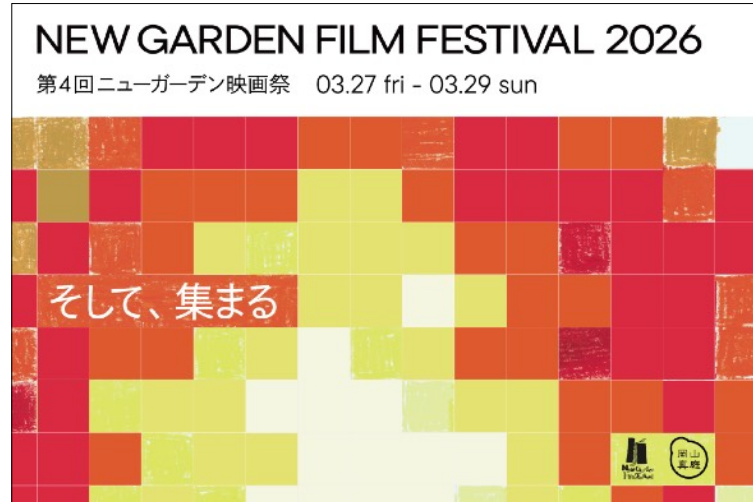
発信元▶

生活環境部スポーツ・文化振興課（担当：柴田）
TEL：0867-42-1178 FAX：0867-42-1416

プレスリリース

山あいの町に、映画と人が集まる。岡山・真庭の手作りミニシアターから生まれた映画祭
「第4回ニューガーデン映画祭2026」開催

[会期：2026年3月27日（金）～29日（日） | 会場：岡山県真庭市内]



NGFF2026 ビジュアル決定！

岡山県北の山あいの町・真庭市で生まれ、市民有志で運営する「第4回ニューガーデン映画祭2026（略称 NGFF2026）」を、**2026年3月27日（金）から29日（日）**までの3日間、岡山県真庭市内にて開催いたします。静かな町を舞台に、作り手と観客、映画と地域との関係を育む、熱く濃密な時間をお届けします。

本映画祭は、公共の映画館が存在しなくなった真庭市において、市民有志の手で誕生させたミニシアターを原点に、2023年に立ち上げられました。映画を鑑賞することにとどまらず、人と出会い、町を歩き、語り合う——そうした体験すべてを営みとして捉え、映画祭そのものをひとつの“庭”として育ててきました。

次世代を担う子どもたちが映画と出会う機会を創出することにも重点を置き、子どもたちが制作した映画の上映、高校生以下の鑑賞料金無料など、地域にひらかれた学びの場としても、その役割を担っています。

第4回となる2026年は、映画の根幹を支える営みである「編集」をテーマに、多彩な作品上映とゲストトークを通じて、一步踏み込んだ映画体験を提示します。

会場は、商店街の空き家を改修して設立したミニシアター「ビクトリシアター」（久世）と、歴史ある町並みが残るエリアに位置する、木の温もりあふれる「真庭市立中央図書館」（勝山）。真庭ならではのロケーションでお過ごしいただけます。また、地域の飲食店などと連携し、「食」を通して人々が気軽に集い、交流しながら真庭の町を巡る仕掛けも用意しています。



ビクトリシアター



真庭市立中央図書館

「映画を観る。人と話す。町を歩く。」—そのすべてが編み合わさる、濃密な3日間をお過ごしください。

■ テーマ：「編集」——そして、集まる

第4回のテーマは「編集」。映画は、何を残し、何を省くかという選択の積み重ねによって形づくられます。この「編集」という行為に光を当て、作り手と観客がともに考え、対話する場をつくります。情報があふれる時代だからこそ、映像がどのような視点で編まれているのかを見つめ直す、ひいては社会そのものをも見つめ直す機会となることを目指します。

メインビジュアルでは、「そして、集まる」をメッセージに、映画を中心に人々が集う場を「焚き火」に見立て、一つ一つの細胞のセルが炎のように集まるような表現を試みました。映画祭という場に人々が集まり、複雑に共鳴し合う熱量を表現しています。

今年の上映作は、オープニング／クロージングの特別上映に加え、3つのセッションで構成される上映プログラムを展開します。いずれも今年のテーマ「編集」と深く結びついたキュレーションです。

■ 特別上映（オープニング／クロージング）

オープニング特別上映では、真庭市制20周年を記念して制作された、映画監督・山崎樹一郎による『JALAN JALAN』のプレミアム試写を行います。クロージング特別上映では、当映画祭に継続的に関わってきた世界的な映画監督・諏訪敦彦の代表作『M/OTHER』を上映し、フィナーレを飾ります。

■ 3つのセクションで構成される上映プログラム

【セクション1】 Laura Citarella's Work : “Collectivize the Cinema!!” | ラウラ・シタレラの世界

世界の映画祭で注目を集めるアルゼンチンのラウラ・シタレラ監督を特集します。昨年、東京でロングランヒットを記録し、日本各地のミニシアターでも上映された『トレンケ・ラウケン』をはじめ、物語の層を幾重にも編み上げる彼女の作品群は、観る者を迷宮のような映画体験へと誘います。インディペンデントかつ協働的な制作スタイルから生まれる自由で開かれた映画表現にも注目が集まっています。

【セクション2】 Perspective Now | パースペクティブ・ナウ

NGFFが“いま注目する視点”に光を当てるセクション。今年はテーマ「編集」に焦点を当て、映画編集者である大川景子氏、秦岳志氏らをゲストに迎え、編集という行為が映画に与える影響を多角的に掘り下げます。編集者自身が携わった作品上映とトークを通じて、映画がどのように立ち上がってくるのかを体感できるセクションです。

【セクション3】 Weekend Ciné Kids | こどもと映画の週末

こどもたちと映画の出会いを大切にするNGFFならではのセクション。世界の名作映画の上映に加え、真庭で継続的に行われているこども映画づくりワークショップで制作された作品をプレミア上映します。プロの映画作家とこどもたちが共に映画をつくり、観る——世代を越えた映画体験が生まれる場です。

■ 映画とともに、町を楽しむ仕掛け

ニューガーデン映画祭は、映画の上映にとどまらず、町にひらかれた映画祭です。映画を観て、語り、町を歩き、食を楽しむ。スクリーンの内と外を行き来しながら、真庭という場所そのものを味わえる時間を提供します。

会期中は、会場周辺の飲食店と連携した町飲みイベント「シネマ de のみ〜の」や、真庭の人気飲食店が集まるマルシェなど、映画をきっかけに人が行き交い、町を巡る仕掛けも用意しています。

【開催概要】

- ・タイトル：第4回 ニューガーデン映画祭 2026（略称 NGFF2026）
- ・会期：2026 年 3月27日(金)～29日(日) [3日間]
- ・会場：ビクトリシアター（岡山県真庭市久世2581）
真庭市立中央図書館（岡山県真庭市勝山53-1）
- ・上映作品数：約15作品
- ・イベント：ゲストトーク、町飲みイベント、マルシェなど
- ・チケット：2026年2月25日より公式サイトで販売開始（高校生以下無料）
 - 1回券：前売り 1,000 円、当日 1,300 円
 - フリーパス：前売り 5,500 円、当日 6,500 円
 - 「シネマ de のみ〜の」チケット（5枚綴り）4,000円 *1枚で1 プログラム鑑賞可
- ・公式サイト：<https://ngff.jp/>
- ・公式SNS：instagram @newgarden_film、X @newgarden_film

Facebook <https://www.facebook.com/newgardenfilmfestival>



【記者会見 開催のお知らせ】

映画から始まり、人と語り、町へひらかれていく——NGFF2026の全体像を、記者会見にてご紹介します。上映プログラム、ゲスト、上映スケジュールなどの詳細を発表予定です。

- ◆日時：2026年2月25日（水） 13:30-15:00
- ◆場所：ビクトリシアター（岡山県真庭市久世2581）※オンライン配信あり
- ◆内容：上映作品ラインナップ、ゲスト情報、上映スケジュール、関連イベントの発表 ほか
- ◆登壇者：NGFFプログラム・コーディネーター 山崎樹一郎（映画監督）
NGFF実行委員長 柴田祥子、その他ゲスト登壇予定
- ◆申込方法
以下のフォームより**2月20日（金）まで**にお申し込みください。（学生記者、こども記者の参加も歓迎）
 - ・申し込みフォーム：<https://forms.gle/rax4p9p4Fb1g8sUF7>

【別紙】

第4回 ニューガーデン映画祭 2026

上映プログラム & 町を楽しむイベント紹介

NGFF2026では、オープニング / クロージングの特別上映に加え、今年のテーマ「編集」を軸にした3つのセッションで上映プログラムを構成します。映画を深く味わう時間と、町にひらかれた交流の場が交差する、濃密な3日間を体感していただけます。

■ 特別上映

【オープニング特別上映】

『JALAN JALAN』（監督：山崎樹一郎）

真庭市制20周年を記念して制作された本作のプレミアム試写を行います。真庭のかつての農業用水路とマレーシア・サラワクの水をめぐる旅を描いた物語。上映前にはゲストが登壇するオープニングセレモニーを開催します。



【クロージング特別上映】

『M/OTHER』（監督：諏訪敦彦、出演：三浦友和、渡辺真起子ほか）

当映画祭に継続的に関わってきた映画作家であり、一般社団法人こども映画教室®の専務理事として、こどもたちの自由な表現を支え続けてきた諏訪敦彦監督。NGFFにとっても支柱ともいえる存在です。

今年は、カンヌ国際映画祭で国際批評家連盟賞を受賞するなど、国内外で絶賛された『M/OTHER』を特別上映します。俳優との対話と即興から立ち上がる映画表現が、映画祭のフィナーレを深い余韻で包みます。



©1999 WOWOW/バンダイビジュアル

■ セクション1

Laura Citarella's Work : "Collectivize the Cinéma!!" | ラウラ・シタレラの世界

世界の映画祭で高く評価される、アルゼンチンの映画制作コレクティブの中核を担う旗手、ラウラ・シタレラ監督を特集。

昨年、東京で異例のロングランヒットを記録し、日本各地のミニシアターでも上映された長編『トレンケ・ラウケン』をはじめ、複数の物語や時間軸を自在に編み上げる作品群は、観る者を迷宮のような映画体験へと導きます。協働的かつインディペンデントな制作スタイルにも注目が高まっており、商業的な枠組みに縛られず、仲間たちと自由な映画作りを追求する姿は、市民主体のNGFFのあり方とも共鳴します。

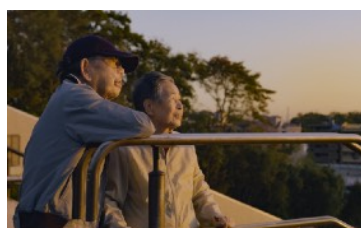


■ セクション2

Perspective Now | パースペクティブ・ナウ

いま注目すべき「視点」に光を当てるセッション。2026年は「編集」を切り口に、映画編集者として第一線で活躍する大川景子氏、秦岳志氏らをゲストに迎え、編集という行為が映画の語りやリズム、視点をどのように形づくるのかを掘り下げます。映画が「編集によって立ち上がる瞬間」を体感する場となるでしょう。

『Oasis』（監督・撮影・編集：大川景子）、『マイ・ラブ：6つの愛の物語 日本篇 絹子と春平』（監督：戸田ひかる、編集・プロデューサー：秦岳志）などの上映を予定しています。



*『マイ・ラブ：6つの愛の物語 日本篇 絹子と春平』は教育目的上映ガイドラインに基づき、**無料上映**となります。

■ セクション3

Weekend Ciné Kids | こどもと映画の週末

こどもたちと映画との出会いを大切にしているNGFFならではのセクションです。親子で楽しめる名作映画として、『アズールとアスマール』と『アニキ・ボボ 4Kレストア版』を上映。また、真庭で継続的に行われているこどもとの映画づくりワークショップによる作品、その他の地域のこどもたちによる短編映画を上映します。こどもと大人、作り手と観客が交差する、世代を越えた映画体験が生まれます。



© 2006 Nord-Ouest Production - Mac Guff Ligne - Studio O - France 3 Cinéma - Rhône-Alpes Cinéma - Artémis Production - Zahorimédia - Intuitions Films - Lucky Red



© Produções António Lopes Ribeiro



■ 映画の前後は、町を楽しむ

ニューガーデン映画祭は、スクリーンの外にもひらかれています。「夜はハシゴ酒、昼はマルシェ」と、余すことなく真庭の町でお過ごしいただけます。

シネマ de のみへの（町飲みイベント）

映画を観たあとは、夜の町へ繰り出そう。会場周辺の飲食店と連携し、ハシゴしながら真庭の夜を楽しむ人気企画です。

シネマルシェ

最終日には、真庭の人気飲食店が集まるマルシェを開催。映画の合間に、土地の味と人の気配を感じられる場となります。

※開催日時・参加店舗などの詳細は後日発表予定

■ ゲスト（予定）

- ・大川景子氏（映画編集者・映画監督）
 - ・小田香氏（映画監督）
 - ・諏訪敦彦氏（映画監督）
 - ・戸田ひかる氏（映画監督）
 - ・新谷和輝氏（ラテンアメリカ映画研究者）
 - ・秦岳志氏（映画編集者）
- （50音順）

※追加ゲストは、2月25日の記者会見にて発表予定

■ NGFF2026 関連企画

こどもと映画をつくる

『こども映画教室プチ® in 真庭』を開催：3月7日、8日

【ニューガーデン映画祭とは】

映画祭の原点は手作りのミニシアター

静かな商店街の一角にある「ピクトリィシアター」は、人口減少の影響で公共の映画館がなくなってしまった岡山県真庭市で、「子どもが映画を楽しみに来られる場所をつくりたい」「世界的に評価される作品や、知性を育む良質な映画を届けたい」という思いから生まれました。真庭市在住の映画監督・山崎樹一郎の呼びかけに賛同した市民有志が、久世商店街の空き家を手作りでリノベーションし、2022年に誕生させたミニシアターです。

その思いをさらにひらき、映画を通じた出会いや対話の場を町に広げようと、同じく市民の手によって2023年に立ち上げられたのが「ニューガーデン映画祭」です。映画という体験が糧となり、この土地に豊かな根っこが育っていくように——。そんな願いを込めて、真庭の地名にも響く「ニューガーデン」と名付けられました。

もともと映画館のなかったこの町で、映画を糧に土を耕し、新しい「庭」をつくること。それは、上映という体験だけでなく、訪れた人同士の出会いや会話、そのすべてを土壌づくりの一部として捉える試みでもあります。

「庭」は、真庭という地名に由来すると同時に、老若男女が自由に行き交い、語り、また戻ってくることで、ひとつの「遊び場」としてのイメージも重ねられています。

映画を通して人が集い、混ざり合い、去り、そしてまた訪れる。その営みを繰り返すなかで、より複雑で、よりたくましい根っこが、この地域に育っていくことを願っています。

プログラム・コーディネーター

映画監督 山崎樹一郎

大阪市生まれ。2006年真庭市に移住し農業をしながら映画を製作。初長編作品『ひかりのおと』（2011）は岡山県内51カ所で巡回上映を行う一方、東京国際映画祭やロッテルダム国際映画祭ブライト・フューチャー部門にも招待される。また、ドイツのニッポンコネクション映画祭にてニッポン・ヴィジョンズ・アワードを受賞。第2作『新しき民』（2014）はニューヨーク・ジャパノカット映画祭にてクロージング上映、ニューヨーク・タイムス紙でも高く評価され、高崎映画祭新進監督グランプリ受賞。『やまぶき』（2022）は第30回カンヌ国際映画祭ACID部門へ日本史上初選出、第51回ロッテルダム国際映画祭タイガーコンペティション正式出品、第4回大島渚賞など、国内外で高い評価を得ている。



運営・組織

- ・主催：ニューガーデン映画祭2026実行委員会
- ・共催：真庭市立中央図書館
- ・助成：真庭市
- ・後援（予定）：真庭市教育委員会、真庭観光局、真庭いきいきテレビ、真庭タイムス、山陽新聞社
- ・協賛：銘建工業株式会社、山下木材株式会社、中国林業株式会社、株式会社中国銀行久世支店、合同会社わっしょいボヘミアン、有限会社金田商店、株式会社マルイ
- ・ビジュアル制作：Poietica

※ 作品、ゲストの画像を使用される場合、著作権表示などクレジット表記が必要な作品があります。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

※上映作品やゲストは、都合により急遽変更になる場合がございます。

※ NGFF実行委員会では運営ボランティアを募集しています。ご希望の方は、公式InstagramのDM、または、公式サイトのお問い合わせフォームより【ボランティア希望】と記し、氏名、連絡先を記載の上、ご応募ください。

▼写真素材のご要望、掲載・取材に関するお問い合わせ先▼
ニューガーデン映画祭2026 PR担当：出口 はる
Tel 090-2319-5605、Email haru@deguchipr.jp